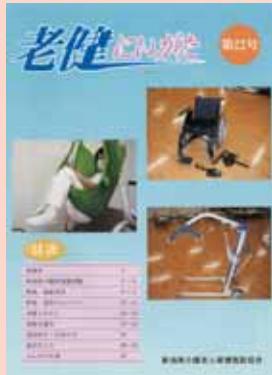


# 老健にいがた

第41号

2017. 2 Vol. 41



## 祝20周年



## 目次

老健にいがたは今年で20周年を迎えました。前号と今号でこれまでの機関誌の表紙をピックアップして掲載致します。

巻頭言	1	市民公開セミナー	12
協会だより	2	新潟県介護老人保健施設大会	13~14
特集：在宅支援の取り組み	3~6	こんなことやってます!!~会員施設の取り組み~	15~18
平成28年度 研修会報告	7~11	みんなの広場	19

# 卷頭言

新潟県介護老人保健施設協会 理事  
女池南風苑 樋 熊 紀 雄



平成 27 年 4 月、介護報酬改定が行われました。賃金・物価の状況、介護事業者の経営状況等を踏まえたものとして全体では 2.27% の大幅マイナス改定となりました。

中等度の要介護者や認知症高齢者となったとしても「住み慣れた地域で自分らしい生活が続けられるようにする」という地域包括ケアシステムの基本的な考え方を実現するため引き続き、在宅生活を支援するためにさらにサービスの充実すなわち「介護サービスの質の確保」を評価するというものです。

住み慣れた地域として在宅復帰支援機能の強化を図るために具体的には①活動と参加に焦点を当てたりハビリテーションマネジメントの充実、②本人・家族とサービス提供者の十分な意思疎通を促進する看取り期における対応の充実、③口腔・栄養管理により認知機能や摂食・嚥下機能の低下などにより食事の経口摂取が困難になっても自分の口から食べる楽しみを得られるよう多職種協働による支援の充実を図る、というものでした。

さて、平成 28 年度新潟県介護老人保健施設大会は 11 月 11 日（金）新潟ユニゾンプラザで開催されました。介護老人保健施設の理念と役割、包括的ケアサービス施設、リハビリテーション施設、在宅復帰施設、在宅生活支援施設、地域に根ざした施設をもとに口演発表 56 題、ポスター発表 8 題の発表が行われました。参加者の中に、今年度は介護養成校 2 校 37 名の学生が特別参加し発表内容を傾聴いただいたことは将来の職場を垣間見る実習とは違った視点からインパクトを与える非常に有意義な試みであったと考えます。

発表内容は、認知症利用者へのコミュニケーション技法として、バリデーション（利用者の背景にある気持ちをくみ取る）、パーソン・センタード・ケア（全人的ケア＝多職種協働）、ユマニチュード（見つめて触れて語りかける）は、何時も利用者の傍において、生活史を聞き出す、耳を傾けることはケアの基本の証であることを痛感しました。

一方平成 27 年度の介護報酬改定をとらえ、重点施策、リハビリテーションのマネジメントと口腔ケアの積極的介入で ADL は改善したとする発表は、多職種協働が基本であることを示し継続し発展的に取り組んでいかなければなりません。

さらにターミナル・ケアの取り組みは、施設基準から鑑み今後介護老人保健施設がその役割を果たさなければならないでしょう。

平成 30 年度は、第 7 次医療計画と第 7 期介護保険事業計画が開始される年です。財政難と社会環境の変化、増大する高齢化人口、どのようにして介護・看護職の人材を確保するかなど難題を抱え厳しい改定が予想されます。より一層多職種協働で取り組みをしなければならないと思います。



## 新規加入施設紹介

### 至誠会

「思いやり」と「笑顔」をモットーに  
「安全・安心・信頼の介護」を実現します



所 在 地：糸魚川市寺地 3018 番地

開設年月日：平成 24 年 10 月 1 日

入所定員：115 人

平成 4 年 4 月に旧青海町（糸魚川市）の誘致を受け、青海病院を開設。療養病床再編に先がけ、平成 21 年 1 月に「介護老人保健施設 至誠会」へ転換、その後、平成 24 年 10 月「介護老人保健施設 至誠会」を「医療法人社団 尽誠会 介護老人保健施設 至誠会」へ変更致しました。

きれいな空気の大自然に囲まれ、山裾の静寂に包まれた場所に私たちの施設はあります。近くには川もあり、夜になると川のせせらぎが聞こえてくる、そんな自然豊かな立地です。緑豊かな癒される環境の中で、入所者様の生活介護、在宅復帰に向けた相談および援助、機能訓練等を行っています。

当施設では、24 時間体制で看護師が常駐しています。

万が一、入所者様のお体に急変があった場合には、ご家族様への連絡を正確かつ迅速に行います。

ご家族様には、定期的に入所者様の詳細情報を説明させて頂きます。「介護」を入所者様目線で考え実行する、それが至誠会職員の気持ちです。カンファレンスや研修により職員の質を高める努力も怠らず、常に明るく対応することを心がけております。

### 平成29年度 関東甲信越ブロック支援相談員合同研修会開催のお知らせ

毎年行われています関東甲信越ブロック支援相談員合同研修会を、第 11 回目の平成 29 年度は新潟県で開催することになりました。

普段、施設の相談業務に従事している方にはぜひ参加していただき、意見交換や親睦を深めていただければと存じ上げます。

#### 日 時

平成 29 年 9 月 2 日（土） 13:00 開会予定

平成 29 年 9 月 3 日（日） 12:30 終了予定

#### 会 場

ロイヤル胎内パークホテル

胎内市夏井 1191-3 電話 0254-48-2211

1 都 9 県の老健施設には協会支部を通じて、後日、開催案内を送付させていただきますので、盛大な研修会になりますよう大勢の方のご参加をお待ちいたしております。



平成26年度、岩手県での全国介護老人保健施設大会において、優秀奨励賞を受賞いたしました千歳園の発表演題をご紹介させていただきます。

## 『在宅支援の取り組み』 ～在宅支援パスを使用して～



千歳園

介護福祉士 真島 豊樹  
施設長 小柳 ひとみ  
介護福祉士 丸山 大輔

### 【はじめに】

老人保健施設は在宅支援の大きな役割を担っている。平成27年介護報酬改定では在宅支援がより強く求められた。当施設では平成21年度から在宅支援の為の取り組みを行ってきたが更にスムーズな在宅支援を進める為に『在宅支援プロジェクトチーム』を発足した。多職種連携での取り組みをここに報告する。

### 【プロジェクトチームの役割と取り組み】

施設長、医師、看護職員、介護職員、リハビリ職員、歯科衛生士、管理栄養士、支援相談員、ケアマネジャーで構成。各職種の役割を明確にし、在宅支援を行う為にそれぞれの職種で何が必要かを検討。情報の共有と連携をどの様にして行うかを検討。

- ・居宅訪問を行い、利用者の身体状況、生活環境、介助方法を確認。課題を抽出し、施設での具体的な支援内容を検討。訪問時の各職種での役割を明確にする。訪問書類の作成。
- ・PT、OT、STによる個別リハビリに加え、介護職員、看護職員が連携し、生活フロアで在宅生活を想定して行う『生活リハビリ』を実施。
- ・支援相談員は家族との面談時に入所の目的と期間を明確にし、入所中の取り組みの説明や在宅復帰後のサービスの確認と提案を行う。
- ・在宅支援マニュアルを作成。
- ・在宅支援カンファレンスを月1回、居宅訪問後、その他必要に応じて開催。多職種で個別の支援方法を検討。

- ・在宅支援パスを作成し運用。
- ・『在宅支援とパスの使用方法』について園内研修会を開催。在宅支援の目的・業務の手順・在宅支援パスの使用方法・各職種の役割について周知・徹底を図る。

### 【在宅支援パスについて】

在宅支援に必要な取り組みをチェック項目に組み込み、情報共有と進捗状況の確認をする。

同じ内容の「利用者・家族用」と「職員用」のパスを作成。内容を照らし合わせながらチェックし、情報共有・連携を図る。

家族は、入所時に支援相談員より在宅支援パスの説明を受け、入所から退所までのスケジュールを理解する。

### 【在宅支援の取り組みの結果】

- ・各職員が『在宅支援』の必要性を理解し、『在宅復帰』という目的を意識した支援ができる様になった。
- ・専門職がそれぞれの役割を考え、取り組み、専門性を発揮できる様になった。
- ・関連職種で居宅訪問を行い、施設生活環境を退所後の環境に近づける、生活空間でリハビリを行う事の重要性を理解した。
- ・ケアプランは自分達で作るという意識を持ち始めた。
- ・家族側から『在宅支援パス』を踏まえた外出や外泊の提案があった。
- ・入所時の目的に沿った取り組みをする事で家族に心構えができた。



### 【考察】

以前は、リハビリはリハビリ専門職が行い、ケアプランはケアマネジャーが作成し、家族との連携は支援相談員が行う、といった様に『誰かが行う在宅支援』であった。職員の意識が大きく変化したのは、在宅支援の取り組みを通じて各職員が責任と役割を認識し、力を発揮する事、チームで取り組む事の重要性を理解したからだと考える。在宅支援の取り組みは、『自分達が行う在宅支援』に変化した。在宅支援パスを使用し、入所から退所までの流れが明確になった事で職員や家族の在宅復帰に対する不安が解消された事も大きな要因である。そして更に家族も自分たちの問題として考える事が出来る様になったのではないだろうか。

在宅支援バスの使用により、効率よく業務を遂行でき、確認不足や手順のミスも防ぐ事ができた。利用者・家族と同じ在宅支援バスを使用し、常に確認できるようにした事で、職員間、家族との情報共有や連携にも役立った。

### 【終わりに】

在宅支援プロジェクトチームの取り組みにより在宅支援はスムーズに進むようになった。しかし、可能性がありながら在宅復帰が叶わない利用者も少なくない。今後はそういった利用者に対しても、施設生活環境の調整、施設内外のサービスの提案を積極的に行い、利用者・家族が安心して家に帰れるよう 在宅支援プロジェクトチームを中心に取り組んでいきたい。

### 【発表を終えて・今後の展開】

現在の在宅復帰率は約 70% 前後である。サービスの質を落とさず効率よく在宅支援を遂行できるよう業務内容やバスなどの見直し検討を隨時行なっている。また前回の取り組みで得た課題をもとに、リピート利用の促進やサービスの提案など、様々な取り組みを続けているが、改めて家族の心構えの重要性を感じている。

在宅支援をすすめるには家族のニーズを把握し、共に考える事が大切である。「自宅へ帰るまでの一時的支援」ではなく住み慣れた場所を拠点に安心して在宅生活を継続できるよう、利用者・家族に寄り添った在宅支援を目指し、今後も取り組んでいきたい。



利用者氏名	様	在宅支援バス(利用者様、ご家族様)	担当職員 介護： 看護： リハビリ：		
/	/	/ ~ /	/ ~ /		
入所前・入所後 <input type="checkbox"/> スタッフが訪問し家庭生活に関する情報をお聞きします。  <input type="checkbox"/> ご本人様、ご家族様の意向を確認します。    <input type="checkbox"/> 必要に応じて住宅改修、福祉用具の利用についてのご相談もさせていただきます。	入所日 <input type="checkbox"/> 医師から説明をします。 <input type="checkbox"/> 内服薬や体の痛みなどの確認をします。    <input type="checkbox"/> 契約をします。  <input type="checkbox"/> 施設内の案内や必要事項の説明をします。    <input type="checkbox"/> 筋力や体の動きを見ます。 <input type="checkbox"/> 暫定プランの提案と説明をします。    <input type="checkbox"/> 外出治をしていただき自宅での問題点を確認、環境調整の検討をします。( / )  <input type="checkbox"/> ケアプランを作成します。 <input type="checkbox"/> 退所の予定をたてます。	入所～4週目 <input type="checkbox"/> 在宅復帰に向けたりハビリをします。 <input type="checkbox"/> 在宅を想定してのケアを行います。    <input type="checkbox"/> フロアでも出来る限り運動をしていただきます。	5週目～週目 <input type="checkbox"/> 外出治時の問題を踏まえりハビリやケアを行います。  <input type="checkbox"/> 家族カンファレンスを開催します。    <input type="checkbox"/> 退所前訪問の予定をたてます。	週目～週目 <input type="checkbox"/> 外出治時の問題を踏まえりハビリやケアを行います。    <input type="checkbox"/> 退所	担当職員 介護： 看護： リハビリ：  <input type="checkbox"/> 退所時指導をお渡します。  <input type="checkbox"/> 必要に応じて内服薬の説明をします。    <input type="checkbox"/>
Ns CW RH	Ns CW RH	Ns CW RH	Ns CW RH	Ns CW RH	Ns CW RH

介護老人保健施設 千歳園

利用者氏名	様	在宅支援バス (職員用)	退所先 :		
/	/	/ ~ /	/ ~ /		
入所前・入所後 <input type="checkbox"/> スタッフが訪問し家庭生活に関する情報をお聞きします。  <input type="checkbox"/> ご本人様、ご家族様の意向を確認します。    <input type="checkbox"/> 必要に応じて住宅改修、福祉用具の利用についてのご相談もさせていただきます。	入所日 <input type="checkbox"/> 医師から説明をします。 <input type="checkbox"/> 内服薬や体の痛みなどの確認をします。    <input type="checkbox"/> 契約をします。  <input type="checkbox"/> 施設内の案内や必要事項の説明をします。    <input type="checkbox"/> 筋力や体の動きを見ます。 <input type="checkbox"/> 暫定プランの提案と説明をします。    <input type="checkbox"/> 外出治をしていただき自宅での問題点を確認、環境調整の検討をします。( / )  <input type="checkbox"/> ケアプランを作成します。 <input type="checkbox"/> 退所の予定をたてます。	入所～4週目 <input type="checkbox"/> 在宅復帰に向けたりハビリをします。 <input type="checkbox"/> 在宅を想定してのケアを行います。    <input type="checkbox"/> フロアでも出来る限り運動をしていただきます。	5週目～週目 <input type="checkbox"/> 外出治時の問題を踏まえりハビリやケアを行います。  <input type="checkbox"/> 家族カンファレンスを開催します。    <input type="checkbox"/> 退所の予定の確認をします。 <input type="checkbox"/> 必要に応じてご家族に介護指導をします。(口食事 □排泄 □移乗・移動 □入浴 □ )  <input type="checkbox"/> 外出治をしていただきます。( / )  <input type="checkbox"/> 退所に向けて訪問指導に伺います。	週目～週目 <input type="checkbox"/> 現状の説明をします。(2ヶ月後カンファレンスの報告)  <input type="checkbox"/> 外出治時の問題を踏まえりハビリやケアを行います。    <input type="checkbox"/> 退所	担当職員 介護： 看護： リハビリ：  <input type="checkbox"/> 退所時指導をお渡します。  <input type="checkbox"/> 必要に応じて内服薬の説明をします。    <input type="checkbox"/>
Ns CW RH	Ns CW RH	Ns CW RH	Ns CW RH		

介護老人保健施設 千歳園

# クレーム対応研修会

今回の研修は、株式会社インソースの大塚友子氏を講師としてお迎えし、「クレーム対応研修会～CSを推進するためのクレーム対応～」と題して行われました。当日は、県内各地より介護、看護、リハビリ、ケアマネジャー、事務、支援相談員といった幅広い職種の方が参加しました。

初めに、各グループでの握手を交えた挨拶を行い、和やかな雰囲気の中で始まりました。

内容は、クレーム・接遇・CS（顧客満足度）の関係性、クレームの背景と傾向、クレーム対応の4つの基本手順などの講義がありました。またグループワークやケーススタディを通して、クレームに対しての対応方法やお詫びの声のかけ方などを学びました。その中でも、クレームは『相手の立場になって考えることが出発点』、『改善点の宝庫』、『組織（複数）としての対応』など講師からの説明が印象的で、非常に充実した研修となりました。

日 時：平成28年6月23日（木）
会 場：アオーレ長岡
参加施設：44施設
参加人数：44名



## ～参加者の声～

- ・クレーム研修ということで、少し身構えていたところがあったのですが、コミュニケーション、接遇、マナー、言葉のチョイスなど、日頃の対応に欠かせない部分を多く学べたように思います。これから実践で活かしていくようにしたいです。
- ・とても良いグループワークが行えました。クレームになる前の対応、接遇、初期対応が大切だと思いました。また相手に共感する力もつけていきたいと思いました。
- ・資料もわかりやすく、研修の構成も飽きずにあっという間の研修でした。又、普段行っていることの振り返りもできて良かったです。
- ・グループで話し合うことが多く、和気あいあいとして行えました。他施設と情報交換ができ、有意義でした。

# 通所リハビリ研修会

宮城県せんだんの丘施設長の土井勝幸氏をお迎えし、通所リハビリ研修会と題して、「通所リハに求められた“活動と参加”の支援のあり方」について講義をしていただきました。

## 土井 勝幸 氏 プロフィール

宮城県 医療法人社団東北福祉会  
介護老人保健施設せんだんの丘 施設長兼作業療法士

平成12年 医療法人社団東北福祉会  
介護老人保健施設せんだんの丘 副施設長  
平成18年 学校法人梅檀学園 東北福祉大学  
特任准教授（兼務）  
平成20年 医療法人社団東北福祉会  
介護老人保健施設せんだんの丘 管理者

日 時：平成28年7月21日（木）

会 場：アオーレ長岡

参加施設：53施設

参加人数：81名



午前は、通所リハビリテーションに関する介護報酬のポイント、また生活行為向上リハビリテーションについてリハビリ開始から卒業までの流れをせんだんの丘での事例を基に講義をされました。加算を取ることを目的とするのではなく、「ご利用者1人のケースを大切に。」を考えなくてはならないとお話されていました。

午後は、3施設からの実践報告、そしてグループワークを通じて、各施設での取り組みや課題について活気のある意見交換が行われていました。

最後に、「1人が変わらなければ何も変わらない。」というメッセージで研修会を締めくくっておられました。



越南苑  
作業療法士  
椿 肇 氏



サンクス米山  
作業療法士  
小山 智彦 氏



女池南風苑  
理学療法士  
矢部 翔平 氏



## ～参加者の声～

- ・「まずは1ケースから」と言う言葉に、やってみようかな、という気持ちになれた。
- ・介護報酬改定の理解やそれに基づく実際の取り組み、また工夫を知ることができ、職場の現状に応じてよりよいサービスになるよう活用していくこうと思った。
- ・加算のことや老健の通所リハの動きについて、より詳しく知ることができた。
- ・生活行為向上リハ加算取得には、まだまだ課題があると感じた。
- ・非常に関心のもてる講義だった。活気に満ちた施設にするため、取り組みや方針を検討ていきたい。

# ひやり・はっと事故防止対応研修会

文京学院大学 保健医療技術学部 作業療法学科 教授  
大橋幸子 氏を講師に迎え、介護現場での「ひやり・はっと」の事例を検証・分析し事故やトラブルの予測、対応を行うまでの検討の仕方等についての研修を行いました。

日 時：平成28年8月22日（月）  
会 場：アトリウム長岡  
参加施設：36施設  
参加人数：59名



## 大橋 幸子 氏 プロフィール

文京学院大学 保健医療技術学部 作業療法学科 教授、  
作業療法士、言語聴覚士、  
埼玉県作業療法士会理事、埼玉県摂食・嚥下研究会理事、等

午前中は、平成27年度事故・トラブル発生状況の分析結果の説明を講義していただきました。午後からはグループワークを中心に行い「日々悩んでいる事例」について各グループでディスカッションをし発表を行いました。また、グループ発表後に、原因究明シート「S H E L L モデル」の使い方についても講師より説明していただきました。



## ～参加者の声～

- ・グループワークでは、他施設の方の取り組みや意見を直接聞く事が出来て、また他職種の方の話も聞くことができて大変勉強になりました。
- ・どの老健でも悩んでいる事は同じなんだと痛感しました。その中で話し合いができる、とてもよかったです。
- ・いろんな施設での現状や情報が聞けて、学べることが多かった。施設に持ち帰り、委員会で検討したいことがいっぱいあり、参考になりました。
- ・事故の対策を立てる際の手順をわかりやすく説明して頂けたので良かった。
- ・ひやりはっとに対する対応の仕方が、他の施設では違っていたので、色々な意見が聞けて良かったです。

# ターミナルケア研修会

今回の研修は、『看取られる人、看取る人に老健が出来ること』をテーマに講義、事例発表、グループワークが行われました。

ターミナルケアについて、県内の身近な施設での取り組みを聴くことで自分たちの施設に戻った時に今後参考に出来るようなことが色々と見つかったのではないかと思います。

## 【午前の部】

講義「越南苑におけるターミナルケア」

越 南 苑 副看護部長 中嶋 藤子 氏  
 ・ターミナル期の意思決定支援のあり方  
 ・多職種連携、各職種の役割  
 ・加算、ご家族への説明・同意、職員教育等



## 【午後の部】事例発表

阿賀の庄 看護師 中澤栄里子 氏  
 『看取りケアへの取り組み  
 ~実用的なマニュアル作りに向けて~』

中嶋氏

いわむろの里 准看護師 丸山 由香 氏  
 『これからの看取りケアに向けて  
 ~職員の不安をなくしたい~』



さくら苑 介護福祉士 星野恵美子 氏  
 『ターミナルイノベーション  
 ~さくら版ユマニチュードの可能性~』

中澤氏 丸山氏 星野氏



## ～グループワーク～

『私たちのターミナルケア』と題し、他の施設はどうしている？自分の施設ではこうしている等様々な情報交換が積極的に行われました。

## ～参加者の声～

- ・ターミナルケアは体制を整えれば不安なく取り組めるものだと感じた。
- ・入所した時点で利用者と家族との関わりを取り、どのような思いがあるかを知り理解しておく必要があると思った。
- ・実際に施設で使用している看取りにおける医療についての確認書が具体的で参考になった。
- ・今後ターミナルケアのマニュアル作成に取り組んでいけたらと思った。
- ・マニュアル作成についてもっと具体的に聞きたかった。
- ・利用者・家族に寄り添う。この気持ちを忘れずケアしていきたい。
- ・グループワークの時間がもう少し欲しかった。困っていることなどを共有して、それに向けての改善点や、他施設の取り組みを聞き考えていければ良かった。

# 安全に美味しく食べるために ～嚥下障害の評価・対応と口腔ケア～

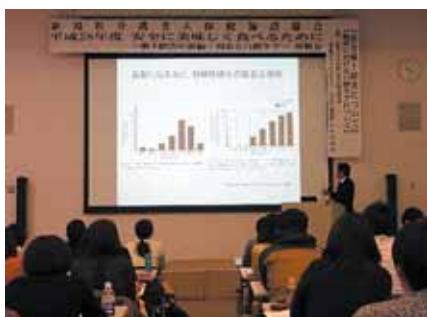
今回の研修会では、超高齢社会を迎え、嚥下機能低下に伴う高齢者肺炎が問題となっていること、その一方で食事は楽しみの場でもあることから、医学的側面だけで対応を決められないことをお話しいただきました。続けて、摂食嚥下障害・機能低下が疑われる場合の評価と対応について、ご講義いただきました。

また、口腔ケアについては、義歯清掃や管理方法、忘れがちな部位の説明、口腔ケアを行うことが困難な症例に対するアプローチの紹介がありました。午後からは、参加者同士が実際に口腔ケア用品を使用して口腔ケアを行い、どのようにすればケアしやすいかなどを講師に質問しながら行いました。知識や技術の向上につながり、とても有意義な時間を過ごすことができました。

## 辻村 恭憲 氏 プロフィール

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
摂食嚥下リハビリテーション学分野 准教授  
平成21年 日本大学大学院歯学研究科 修了  
平成21年 新潟大学大学院医歯学総合研究科  
摂食嚥下リハビリテーション学分野 助教  
平成27年 同 准教授

日 時：平成28年12月5日（月）  
会 場：新潟ユニゾンプラザ  
参加施設：46施設  
参加人数：86名



## ～参加者の声～

- ・口腔ケアはなかなか時間が取れないので、ポイントが分かってよかったです。
- ・経験値でわかっているつもりのことでも改めて言葉や文字で教えていただくと発見もあり、再確認できた。
- ・口腔ケアを自分で実際に体験できて日々のご利用者の気持ちが少しでも理解することができた。
- ・今までの研修では、資料を読めば完結してしまうものや理想形を求めすぎているものが多くたが、今回の研修は資料にない内容もたくさん講義してもらい、内容が濃く、学んだことを広げたり実際に現場に取り入れたい。

# 一生のうちに何回笑う？ 笑顔の数を増やそう！生涯笑顔！

県老健大会と同日開催（平成28年11月11日（金）新潟ユニゾンプラザ、参加者約340名）いたしました市民公開セミナーには、講師としてメイミ氏をお迎えしご講義いただきました。笑いとユーモアたっぷりの参加者と一緒にした講演でした。

## 〈メイミ 氏 プロフィール〉

特定非営利活動法人 笑顔工場 理事長

漫談家／介護福祉士

舞台や各種イベント等、様々な場面で漫談家・司会者等の活動をする傍ら、都内のデイサービスセンターで介護福祉士として高齢者介護に携わる。特定非営利活動法人笑顔工場を設立し、現在は十数名の若手芸人の参加者を連れて、関東を中心に福祉施設でのお笑いライブを展開。様々なボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。



「一生のうちに何回笑う？笑顔の数を増やそう！生涯笑顔！」をテーマにした公開セミナーに参加してきました。笑顔工場は「笑顔は副作用のない魔法の薬」というスローガンをもとに、これから高齢化社会に向けて「笑って長生き」という考え方を広めていきたいという思いをお話されました。

メイミさんの職歴や今まで関わってきた利用者の方達との思い出を織り交ぜながら、そして時には講演を聴きにきた方々とディスカッションしながら、笑顔の重要さをお話されていました。

このセミナーに参加して、笑うことの大切さを学ぶ事ができたので、人と関わる中で常に笑顔でいることを心掛けようと思いました。



## ～参加者の声～

- 私は利用者に笑顔で接する事を心掛けています。しかし今まで以上に笑顔の重要性を学ばせていただきました。
- メイミさんの可愛いメイド姿？エプロン姿？は福祉の講義としては斬新でした！内容も参加型で楽しく、あっという間に時間が過ぎました。
- 手を動かす体操は自然と笑顔になることができました。施設でも利用者様と行ってみたいと思います。
- 1日に何時間、笑顔でいるのか？考えたことはありませんでした。少しでも笑顔で過ごせるよう心がけます。

# 平成28年度 新潟県介護老人保健施設大会

平成28年11月11日（金）新潟ユニゾンプラザにおいて「新潟県介護老人保健施設大会」が68施設から322名のご参加を頂き開催されました。

5会場（口演4会場・ポスター1会場）にて口演発表56題、ポスター発表8題が行われました。

各施設の研究発表は、多種に亘り興味深いものばかりでした。質疑応答では質問のみならず意見や感想なども多く挙がり皆さん熱心に参加されていました。



## 開会式



新潟県福祉保健部  
副部長 山田 富美子 様



新潟県医師会  
副会長 小池 哲雄 様



新潟県老人福祉施設協議会  
会長 市井 栄吉 様

## 会場の様子



### ～研究発表について参加者の声～

- ・各施設とも課題によく取り組み、工夫している点が勉強になりました。
- ・皆さん、日々の業務で忙しい中、一生懸命に研究されていると感じる事ができました。
- ・当園でも看取りを行っていますが、参考になる発表が多くありました。
- ・聞きたい発表の時間が重なって残念でした。来年も是非、参加したいです。

# ～学術奨励賞演題～

演題	施設名	発表者
業務改善への取り組み	国府の里	田中一樹
ゼリー食への取り組み	白根ヴィラガーデン	小林史子
不穏と不安を安心に変えるには？	保倉の里	滝澤阿紀
私達、拘束しませんから！	楳の里	小田憲一
当施設における経口維持加算の現状について	女池南風苑	青木治朗
講習会を通し考える一人ひとりの排泄ケア	やまぼうし	小池一善

(施設五十音順・敬称略)

学術奨励賞の選考基準と各会場の座長の評価に基づき、学術研修担当理事が選考し学術奨励賞を決定いたしました。

各会場から1題、参加者最多投票1題の計6題が選ばれました。受賞者は、平成29年度通常総会で表彰されます。

受賞者を代表して、「楳の里」の小田憲一さんに、受賞した感想等をインタビューさせて頂きました。



学術奨励賞を受賞された皆さんです。

## ～受賞者の声～

楳の里 小田 憲一さん

**Q 受賞した感想**

**A** 会場の皆さまからの得票が何より嬉しく、光栄な事であると思っています。

**Q 受賞を誰に伝えたい？**

**A** 一緒に取り組んだメンバーやアドバイスを下さった先輩や上司、日々実践している同僚の皆さんです。

**Q 研究のアピールしたい点**

**A** ご利用者様だけでなく介護する方にもフォーカスしており「介護と快護」という副題に繋がっています。

**Q 苦労した点**

**A** 情報は詰め込み過ぎずシンプルに。スライドに繋がりを持たせて必要な情報を伝える事を心掛けました。

## 健進館夏祭り

健進館 介護福祉士  
忠 貴嗣

健進館では、毎年8月に駐車場において「夏祭り」を開催しています。今年も天候に恵まれ、無事開催することができました。

およそ1ヶ月前から委員会で話し合い、出店・プログラム・会場づくりなどについて準備を行います。今年の出店は「綿あめ」「スイカ」「水ようかん」を用意し、入所者様に提供させていただきました。その他に、職員によるカラオケ、踊り（新津松坂）、花火などを行いました。

また、職員がハッピーや浴衣を着たり、会場に提灯を下げたりし、祭りの雰囲気を出すことも心掛けました。

入所者様がおいしそうに綿あめをほおばる姿や、職員の出し物で笑っている姿、花火で歓声をあげている姿を見て私、職員共々準備してきて本当によかったと思っております。



施設生活はどうしても単調になります。しかし、このように季節を感じることのできる行事を取り入れることによって、単調な生活に変化をもたらし、ひいては生活の質の向上につながっていくものと考えています。

来年以降も、委員会で話し合いの場をもち、安全面にも留意しながら職員同士協力し行っていきたいです。入所者様に喜ばれるような行事を開催していきたいと思っています。

## レクリエーションで笑顔に!!

国府の里 介護福祉士  
岩片 ひとみ

上越市直江津地区にある国府の里は入所100床、通所リハビリテーション20名の施設です。居室の窓から昇る朝日、海に沈む夕日が望めます。

入所している方に楽しんで頂けるよう年間行事や毎月の誕生会を職員が中心となり考案しています。天気の良い日には海風デッキで『海風喫茶』をオープン。海を一望し潮の香りを感じ、レクリエーションをしながらお茶を楽しんでいます。

施設の横で小さな畑を作り、四季折々の野菜を育てて



います。夏にはキュウリやナス、トマト、カブを作り、冬に向けては白菜を作っています。毎日野菜の成長を楽しみながら、畑をしていた入所者の方々から管理や野菜について教わっています。収穫した野菜を職員と一緒に切り、浅漬けを作り、皆さんと食べています。美味しいと大評判です。

これからも入所者の笑顔が多くみられるような取り組みを考えていきたいと思っています。



## 四季折々楽しい生活、みんなで笑顔

さど 介護福祉士  
小松 佳史

当施設では、利用者様に楽しみを持って、生き生きとした生活を送り、リハビリを行う事で在宅復帰していただけるように支援することを心掛けております。その「楽しみを持って」に欠かせないものに行事があります。

当施設の行事では、施設の裏手に開設当初から植わっている桜を見る『お花見』、バスを貸し切っての『バスハイク』、佐渡の夏祭りといえば『鬼太鼓』が付き物ということで、地元の鬼太鼓の経験がある男性職員を中心に職員が鬼太鼓を披露する『夏祭り』、職員が踊りや劇を披露し

盛り上げる『忘年会』などが毎年「楽しみにしている、嬉しい」と利用者様にたいへん好評いただいております。また、毎月のお誕生日会やJA女性部の方々・保育園の園児・ボランティアの方々の慰問なども行い、楽しんでいただいております。

これからも、その時々の季節を感じて頂けるような様々な工夫を行い、「楽しみを持てるようになった。」「入所以前より元気になった。」と言って頂けるような施設を目指し、頑張っていきたいと思います。

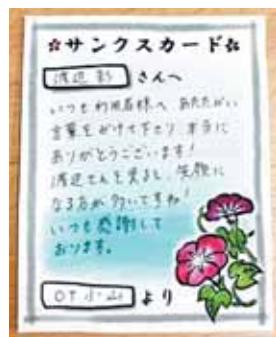


## 「サンクス道」の紹介 ～個性が光り、感謝で支え合う職場を目指して～

サンクス米山 作業療法士  
小山 智彦

「サンクス道」は人材育成や職場環境の改善、またサービス向上を目的に行っている独自の活動です。サンクス道は「感謝の心を極め、自分らしさを磨く道」と定義しており“サンクスカード”という感謝の心を伝えるカードをメインに活動を展開しています。サンクスカードは職員・利用者様・ご家族様との間でやり取りすることができ、投函した枚数で階級が上がっていきます。10枚投函でサンクス道三段、39枚で名人、100枚で師範と認定され、特別なカードや称号が授与される仕組みになっています。

サンクス道では、感謝の精神が育まれるだけでなく、階級が上がる毎に職員の強みや個性が引き出され、お互いに認め合いながら、上司や同僚に感謝されるという体験ができます。その結果「人を大切にする職場風土」が生まれ、職員の個の強みや能力を生かしたサービスが展開されるようになります。投函されたカードは5000枚以上！ブログも更新中です。ぜひご覧ください。



サンクス道のブログ→ <http://www.kaigogoyoukiki.net/niigata/blog/021/>

## 外出バスハイクについて

春風堂 作業療法士  
石田 芳彦

春風堂は「牛の角突き」や「へぎそば」、「片貝花火」などのある小千谷市にあります。四季の移り変わりを身近に感じることができます、自然豊かな環境にあります。

当施設では、レクリエーション活動のほか、書道・園芸・調理クラブ、誕生会、納涼祭や運動会など入所者の皆様に楽しんでいただけるよう様々な活動を行っています。ほかにも外出の機会を提供する目的で、外出バスハイクを行っており、参加者の皆様から好評をいただいております。

外出バスハイクのなかでも、山本山高原の菜の花畑、越後丘陵公園のバラ園見学、日帰り温泉入浴やラーメン、す



し、そばの外食など

は特に好評で、参加された皆様からは、「い～ところに連れて来てもらって良かった」「きれいな花が見られて良かった」「外に出ると気持ちがいい」などの声が聞かれます。

普段外出することの少ない皆様にも外出の機会を作り、季節を感じたり、気分転換ができるよう工夫していきたいと思います。



## ほほえみハーブ園

ほほえみの里きど 介護福祉士  
窪 智美



当施設では、毎年敷地内の畑に茄子やトマトなどの野菜を育てながら園芸活動を行ってきましたが、昨年より新たに、利用者様と共に『ほほえみハーブ園』を作りました。

ハーブにはリラクゼーション効果などの様々な効能がある事を知り、利用者様と一緒に育てたハーブをハーブティーにして提供する事で、より質の高いティータイムを持つことが出来ると考えたからです。皆様歩行練習の途中で足を止め、カモミールやコモンマローの花を眺めたり、ミントの葉を手に取り、香りを楽しんでおられます。

中には屋外へ出る事に消極的だった利用者様も、「見に行ってみようか」とハーブ園に興味を持って下さるようになりました。秋に植えたジャスミンの木も育ち始め、ジャスミンティーが飲める日を楽しみに利用者様と一緒に成長を見守っています。



## 笑顔クラブの活動 その後

三川しんあい園

看護課長 白井智子

作業療法士 長谷川 将義

以前「老健にいがた」第34号で当園のボランティア活動による、アニマルセラピーを紹介させて頂きました。現在は、新潟県獣医師会副会長の宮川保先生が、専門的な知見から活動に参加してくださっているので、その内容を報告します。

ラブラドールレトリバー（牝）のシェラとミニチュアダックスフンド（牝）のナミの2匹が月に1回、ボランティア犬としてやって来ます。円陣体系をとり、集団での活動ですがシェラとナミが1人1人の所をまわり、触れ合っています。利用者様もワンちゃんとの交流を楽しみにしておられ、名前を呼んだり、声をかけたり、頭を撫でたりして、なんともいえない優しく愛情深い表情をされています。



これからも利用者様のたくさんの笑顔と喜びがあふれる様に、ボランティアに来て下さる宮川先生、ボランティア犬の力を借りながら、職員一同取り組んでいきたいと思います。

## 祭りだ、わっしょい!!

緑樹苑

介護福祉士 古川 真美子

施設管理員 渡辺文夫

当施設では年間、様々な行事を行っています。とりわけ、納涼祭は屋台（やきそば、かき氷）やゲーム、景品交換といったアトラクション、さらに職員参加のお御輿と一番賑やかな行事です。祭りのフィナーレを飾るお御輿では男性職員は褲に腹掛け姿、女性職員は腹掛けに股引姿と衣装にも凝り目にも耳にも楽しい出し物となります。昨年は初代御輿の全面修理。今年は新たに二代目となる御輿を作成。施設管理課職員と介護職員の二人で試行錯誤しながら、一から作りました。材料のほとんどは端材や百円ショップで調達。まさに製作者二人の努力の結晶。入所者

様も飛び入りで担いでいただき、ほんのひとときですが、夏を感じていただきました。今後も入所者様と一緒に楽しめる行事を開催したいと思います。





ひな

の広場

## 健進館



当施設は2ヶ月に1作品のペースで創作の作品を仕上げています。その季節に合った作品を考え、利用者様が集まる食堂へ展示し、季節を感じて頂ける様にしています。

## さど

施設内の文化祭作品として作成した「手形・足形アート」です。



利用者様と職員の手形・足形をとり、それがにぎやかな動物園になると、利用者様から「大したものだな～」「うまいな」とお褒めの言葉を頂きました。

## 春風堂

### 「貼り絵」

色画用紙と古封筒を利用して貼り絵をしました。

色画用紙を巻いて下絵にあわせて貼っていきます。根気のいる作業ですが、完成した時には達成感があり、見る方の目も楽しませてくれます。



## 国府の里

入所者様と協力して作成したモザイクちぎり絵「五智国分寺三重の塔」です。毎年作品展を開催しており、入所者様や来場者から気に入った作品に「いいねシール」を貼ってもらつた結果、最も得票が多かった作品です。



## サンクス米山

感謝のメッセージで作った「サンクス米山」

職員、利用者様、ご家族様で日ごろの感謝のメッセージをサンクスリーフ（葉っぱのカード）に書き、靈峰米山に見立てた「サンクス米山」を作成しました。使用したサンクスリーフは、219枚になりました！



## ほほえみの里きど



毛糸を小さく丸めて豆の形にしたり、お花紙や貼り絵を組み合わせるなど利用者様と一緒に相談し合いながらかわいいオニが出来上がりました。

## 三川しんあい園

玉絵・ペーパーロール・貼り絵を融合し、作成者様の家紋を入れた個別作品です。



制作に約1年をかけた超大作になりました。今まで手工芸に受け身的でしたが、家族や職員から作品を褒められ、自信にも繋がりました。

## 緑樹苑

利用者様が出来る作業をそれぞれ分担しながら折り紙手芸のだるまをつくりました。

キリッとした顔立ちの中にどことなく愛嬌のある作品に仕上りました。縁起物の作品なので効果に期待しています。



## 編集後記

平成8年に機関誌『老健にいがた』が創刊して今年度で20年を迎えることができました。原稿依頼に際し皆様には快くご協力を頂き、御礼申し上げます。引き続き、広報委員一同頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。

この20年で老健を取り巻く環境も随分変化してきました。これからの中高齢社会に向けて、認知症高齢者の増加、要介護・要支援者の増加、介護人材人手不足など課題は山積みです。地域包括ケアの確立を目指し、老健で働く職員として、質の高い介護サービスの提供を今後も続けていきたいと思います。

(広報委員一同)

新潟県介護老人保健施設協会広報誌

## 「老健にいがた」第41号

編集・発行 新潟県介護老人保健施設協会  
広報委員会

〒959-2805 新潟県胎内市下館字大開1522  
介護老人保健施設やまぼうし内

TEL (0254) 47-3303

FAX (0254) 47-3370

URL <http://niigata-rouken.org/>

印刷 野崎印刷株式会社